

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	「ちょうふ在宅医療相談室」について
演者名	西田伸一
所属	調布市医師会(東京都)

目的

来年度より在宅医療連携拠点が地域支援事業に組み込まれ、地域包括支援センターとの連携の充実が期待される。地域包括ケアシステムの構築において、在宅医療体制の整備が地区医師会の重要なミッションである。

実践内容

調布市では東京都在宅医療連携推進事業として平成22年度より医師会に在宅医療相談室を設置し、病院から退院される方に対する訪問診療医の推薦や、市民の在宅医療に関する相談対応を行っている。また、26年度からは摂食・嚥下機能支援事業も開始しており、在宅医療の連携拠点として地域包括ケアに必要な機能を確保できるよう調整中である。

実践効果

平成22年10月より平成26年8月までの訪問診療医紹介依頼件数は164件であり、うち134件(81.7%)で医師の推薦に至った。訪問診療医の推薦は窓口に登録した医療機関の手挙げで行っているが、受諾する診療所が限られる傾向があり、本事業が多くの医師に訪問診療への参入を促す機会にはなっていない。

考察

今後、診療所間のネットワーク構築に向けた更なる取り組み、病院医師や地域住民への在宅医療の啓発活動、また相互研修事業の実施等が必要になると考える。以上の内容について報告し、地域包括ケアシステムにおける地区医師会の役割について考える。